

## 平成 22 年度上半期事業報告（9 月末時点）

～前年上半期実績上回る 2,195 億円～

「ステップ・アップぎょさい」運動 2 年目にあたる平成 22 年度上半期の加入実績は、共済金額でぎょさい史上最高実績を更新した前年度の上半期実績を 233 億円上回る 2,195 億円（前年対比 112%）となっております。

実績が増えた主な漁業種類は、一般まき網漁業で約 10 億円、ほたて貝養殖業で 34 億円、はまち養殖業で昨年度の大規模な赤潮被害を受けて新規・契約割合アップ等により約 95 億円、チリ地震による津波被害を受けて新規・契約割合アップ等によりはえ縄式養殖施設で約 8 億円、定置網で約 29 億円、また平成 21 年 10 月制度改正による養殖共済の新魚種の追加に伴い 44 億円など大幅な増加となっております。

一方、支払共済金も前年度上半期を約 43 億円上回る 107 億円（前年対比 165.4%）となっております。

支払の主なもの、不漁・魚価安による小型合併漁業で約 5 億円、底曳網漁業で約 4 億円、昨年度の大規模な赤潮被害を受けて 1 年魚はまち養殖業で約 5 億円、大規模な色落ち被害等による、のり等養殖業で約 18 億円、チリ地震による津波被害により養殖施設全体で約 3 億円と、こちらも大幅な支払増となっております。

被害を受けた漁業者は、新規加入および契約割合アップ等による手厚い補償内容へ移行し、「ぎょさい」への認識が強まっていることがうかがえます。特に 9 月号でお話した八代海の赤潮は、2 年連続で大規模な被害となりましたが、昨年度より補償内容が高くなっていたため、被害を受けた養殖業者の方の支えとして機能することができました。しかし、大規模な自然災害等の被害を受けても、未加入または低い補償内容で加入されていたため、「ぎょさい」が災害対策、経営安定対策の役割を十分発揮できない残念な結果となってしまった事例も見られました。

今後も「ぎょさい」が確かな支えとして、その役割を十分に発揮できるよう、未加入者への加入推進および既加入者についてはより高い補償内容で加入していただけるよう、運動目標である「高い補償力での加入の普遍化」を目指し、下半期も共済団体一丸となってより一層の普及推進に努めるとともに、平成 23 年 4 月よりスタート予定の資源管理・漁業所得補償対策の中の漁業収入安定対策は共済加入が前提となりますので、関係各位のより一層のご理解・ご協力を得られるよう全力を傾注したいと思っております。

### 平成 22 年度上半期の引受支払実績

（金額単位：百万円）

	共済金額				支払共済金			
	H22 年度	H21 年度	対比	増減	H22 年度	H21 年度	対比	増減
漁獲共済	104,674	100,734	103.9%	3,940	4,038	2,884	140.0%	1,154
養殖共済	89,249	77,810	114.7%	11,439	1,444	827	174.4%	616
特定養殖共済	8,840	5,402	163.6%	3,437	4,741	2,606	181.8%	2,134
漁業施設共済	11,306	7,254	155.8%	4,053	430	98	440.8%	332
地域共済	5,463	5,033	108.5%	430	94	79	119.0%	15
合計	219,532	196,232	111.8%	23,300	10,746	6,494	165.4%	4,252